

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	公共政策教育 部	カテゴリー	社会科学総合科目群	横断 区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	通商産業政策 (Trade Policy and Industrial Policy)		講義担当者 所属・職名・ 氏名	公共政策教育部・ 非常勤講師・佐伯 英隆		開講 場所	総合研究2号館 公共3演				
配当 学年	専門職 修士 博士後期	単位 数	2単位	開講年 度・開講 期	前期	曜時限	木5限 (16:30-18:00)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本講座は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①そもそも「産業政策」なるものが必要なのか、有効なのかという課題から出発し、 ②戦後のわが国の産業構造の変遷を俯瞰し、 ③産業構造の高度化過程における産業政策の役割と限界を論じ、 ④各国の産業政策を比較・検討し ⑤同時に通商政策との連携と ⑥通商政策意思決定過程における政・官・民の機能と相互関係の検討等を通じて、 ⑦産業経済の内外一体化、「グローバル化」と称されるものの実態と功罪を把握することを目的とする。受講者には講義全体の流れの中で、「国が富む、国が強くなる」ということはどういう事なのかということを考えるきっかけを掴んでもらいたいと考えている。 <p>【研究科横断型教育の概要・目的】 「学問的な真理」よりもむしろ「具体的な成果と結果からみた判断の正しさ」を要求される通商・産業政策の遂行に必要な素養と手法は、法学、政治学、経済学、行政学等の各分野での専門家より、各分野を総合的・包括的に把握し限定された時間の中で適切な判断が下せるという「専門家」を必要とする。その意味で、本講座は研究科横断型講座に該当する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな例から「産業政策」の根幹部分の原理を学習することにより、「国を(或は地域を)豊かにする」とは、ということなのか把握する。 ・自らを「政策立案者」の立場に置き、特定の(経済政策上の)課題実現のシミュレーションを体験する。 											
【授業計画と内容】											
<p>各事項について概ね2回程度の講義を行うとともに、経済界、官界、政界、マスメディア等から適宜ゲストスピーカーを招き、個別テーマ毎に討議を行う機会を設ける。また、授業の中盤と終盤において受講者に課題を与えてレポートを課し討議形式の授業を行う。ゲストスピーカーの都合により、個別テーマの表題については若干の変更がありうる。ゲストに関しては、前大阪府知事、前仙台市長、前経産次官、前資源エネルギー庁長官、経済産業省サービス政策室長、外務省 APEC 室長、内閣官房審議官、等政官界、元シャープ(株)副会長 等民間企業、共同通信大阪支社整理部長 等マスメディア界などから広くゲストスピーカーとして招いてきている。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業の中盤と終盤においてそれぞれ一度ずつ(計二回)レポートを課す。期末に筆記試験を行う。平常点を加味する。											
【教科書】											
特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。											
【参考書等】											
授業において順次紹介する。											
【授業外学修(予習・復習)等】											

特段の条件は無いが、18世紀以降～現在の歴史(経済史に限らない)に関する知識が豊かなほど理解が進むと考えるので、歴史書等をできるだけ読んでおくことが望ましい。

[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]

希望者があれば、企業の生産ラインの見学等の手配も可能